

あきたの 地域医療通信

2015年1月 第20号

発行 / 秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室



【秋田市の在宅医療を担う訪問診療クリニック】

県内で初の訪問診療を専門に手がけるクリニックを開業し、秋田市内の在宅医療を担っている『医療法人社団 隆仁会 秋田往診クリニック』の市原利晃^{いちほらとしあき}理事長から在宅医療・訪問診療についてお話を伺いました。

Q 開業したきっかけと開業当時の県内の在宅医療の状況を教えてください。



理事長 市原 利晃 先生

プロフィール

秋田県出身。1994年、秋田大学医学部卒業後、秋田大学医学部第一外科、大曲中通病院外科、本荘第一病院外科、雄勝中央病院外科科長、秋田大学医学部第一外科の勤務を経て、2007年10月、「医療法人社団隆仁会 秋田往診クリニック」を開業。現在に至る。

きっかけは、「手術でも治せない病気があった。」からです。外科医のときは、「病気を治すのが医者の仕事」だと思っていました。しかし、末期がんなど、治すことが非常に困難な症例を経験し、「治らない患者をどう支えるか。」と考えるようになりました。

勤務医時代に、色々な医療機関を見学する機会があり、盛岡市の往診クリニックも見学しました。そこで、末期のがん患者さんが自宅に帰って普段通り生活をしていることを目の当たりにしました。その当時の秋田では、入院で生活を制限されて、弱って行く姿を病院で見守っていくしかなく、一度も自宅に帰れないまま最期を迎えるケースもありました。

同じ様な末期がん患者が、盛岡では希望すれば家に帰ることもでき、秋田ではできないという現実、非常に不幸なことであり、悔しいという気持ちがありました。外科では治療しきれない患者が在宅ケアを望んだとき、どうにかして自宅に帰してあげたいと思い、訪問診療の体制が必要だと感じて立ち上げました。

開業した時も、在宅医療に必要な「在宅と病院をつなぐネットワーク」は、秋田市内の開業医と訪問看護ステーションやケアマネージャー等が既に作っていました。しかし、その連携体制では融通が利かなかつたため、私は元々あったネットワークを繋げてネットワークを充実させ、また、歯科医師や薬剤師等に入ってもらい、「多職種連携による在宅医療」という考えを広めていきました。

Q 訪問診療で心がけていること・必要なことは何ですか。

大切なのは患者さんが在宅医療を希望しているかどうかの確認です。もし、患者さんは病院での加療を希望していて、家族の都合で通院が難しい場合は、患者さんのために病院に連れて行く必要があると思います。患者さんの希望を聴き出し、その価値観を尊重する一方で、家族の意向や価値観を聴きながら一緒に考え、患者さんと家族が共に幸せになれる最良の方法を見つけることが、私たちの役目でもあると考えています。病気の治療だけではなく、「生活を支えるため」に医学を使うことを念頭に置いています。

病院の外来と違い在宅ケアでは、患者さんの診察7割+家族の観察3割で、診るようになっています。患者さんの家族が疲れていれば、ショートステイや入院を勧め、共倒れにならないように気を付けます。

患者さんと信頼関係が確立されてくると、患者さんが落ち着いているかどうか、玄関に入っただけで分かります。玄関が荒れていたり、家族が慌ただしく対応したりするような場合は、患者さんの具合が悪く、目が離せない場合です。初めて診る患者さんでも、家に飾っている写真と現在の顔つきを比較することで、どのような闘病生活を送ってきたかが分かることもあります。こうしたことが、在宅医療の「生活を診る」ということだと思います。



訪問診療の様子

Q 訪問診療専門のクリニックを開業してみて感じた在宅医療の今後の課題を教えてください。



在宅医療についての講演会の様子
(2012.3.3「脳損傷者の在宅療養」にて)

一つ目は、在宅医療に対する医療関係者と患者さんの理解を深めることです。在宅医療に対しては、「病気が治らず手に負えなくなっていく所」であるとか、「医学が十分に及ばない所」という印象を、医療関係者や患者さんがまだ持っています。「治す医療」と「患者さんの生活を支える医療」のそれぞれの必要性を理解してもらい、役割分担をしながら両方上手に患者さんが利用できるような体制を作らなければならないと考えています。そのためにも自分は在宅ケアの「PR係」として、今後も色々なところに赴いて在宅ケアをPRしていきたいと思っています。

もう一つは、在宅ケアにも地域差があるということです。秋田市以外の地域ではどうしても在宅ケアを受けにくい現状にあります。「訪問診療専門のクリニックを増やす」という考えではなく、別のシステムも考えていかなければ、これから人口が減っていく地方で、在宅医療を充実させるのは難しいと思っています。

Q これから地域医療を志す若手医師・医学生にメッセージをお願いします。

自分は、何でも治してしまうブラックジャックに憧れていました。何でも治したいという思いがあったので、医学生の時も研修医の時も、とにかく色々なことに興味を持ちました。学生時代には消化器外科になると決めていましたが、研修医になってからは循環器の先生に心臓の超音波検査を、皮膚科の先生には湿疹の診察についてなど、専門に囚われないように勉強しました。色々な経験をして得たその知識が今、在宅医療で大変役に立っています。

以前の在宅医療は「見守る医療」だったかもしれませんが、今は積極的に治療に関われる医療になりました。次のステップは「予防するための医療」や「病気にしないための医療」といった「攻めの医療、攻めの在宅ケア」への発展です。今後は医療の質も変わっていくと思いますが、それを支えるのは若い医師です。今の自分の専門に囚われ過ぎず、たくさんを経験して、色々なことに興味を持ってもらいたいと思います。

「在宅医療が一番」ではなく、「選択肢の一つ」と考えています。在宅医療を選択できるように、患者さんにも在宅医療を理解してもらう必要がありますし、自分自身も今後の地域医療を担う皆さんと一緒に勉強していきたいと思っています。興味がある方は、ぜひ訪問診療を体験してみてください。良い経験になるはずです。

総合診療・家庭医養成プログラムの研修を見学してみませんか。

秋田県と秋田県厚生連が連携し、平成24年4月からプログラムを実施しています「総合診療・家庭医養成プログラム」は、2施設（秋田厚生医療センター及び湖東厚生病院）を研修の場とし、研修修了後（3年）には、日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医、日本在宅医学会認定専門医の受験資格を取得できます。

実際の研修風景や施設の見学は、随時受け付けておりますので、お気軽にご連絡ください。

動画配信も行っていますので、ぜひご覧ください。



問い合わせ先

- 秋田県健康福祉部 医務薬事課医師確保対策室 電話：018-860-1410
E-mail：ishikakuho@pref.akita.lg.jp HP：http://common.pref.akita.lg.jp/ishikakuho/
- 秋田県厚生農業協同組合連合会 医療従事者確保対策室 電話：018-864-2625
E-mail：kakuho@akitakouseiren.or.jp HP：http://www.akitakouseiren.or.jp/
- 秋田厚生医療センター 電話：018-880-3000
E-mail：akjimu1@akikumihsp.com HP：http://www.akikumihsp.com/

第8回 レジデント・スキルアップキャンプ2014

平成26年10月31日(金)、平成26年11月1日(土)の2日間、大潟村のホテルサンルーラル大潟を会場に「第8回 レジデント・スキルアップキャンプ2014」を開催しました。

1日目は、福井大学 寺澤秀一教授の講演『救急を如何に研修するべきか』を皮切りに、秋田県内の臨床研修病院の指導医による『ファーストタッチ・サーキットトレーニング』を行い、研修医が日頃思っている不安や悩みを共有し、「新たな発見の機会になった」と大変好評でした。

2日目は、実際に各病院の研修医に症例発表をしてもらい、クイズ形式で答える『JOINT CASE CONFERENCE』や県から『秋田県の医師不足の現状』について講演があり、参加された研修医の先生方は熱心に話に聞き入っていました。



寺澤教授による講演の様子



サーキットトレーニング風景

医学生のための実践セミナー2014

平成26年11月1日(土)に、全国の3～5年の医学生を対象とする「医学生のための実践セミナー2014」を開催しました。

このセミナーは、秋田大学の長谷川仁志教授が総合監修され、午前は講義形式で、午後は最新シミュレータを使用し、症例ベースの臨床推論や初期対応を学びました。全国各地の医学生が参加され、臨床体験や医学的知識だけでなく、医学生同士の交流も深める会となりました。来年度も実施予定ですので、今年度参加した方もできなかった方も、ぜひご参加ください。



長谷川教授によるシミュレーションを用いた講演

イベントカレンダー

開催月日	名 称	対 象	場 所	お問合せ先 (団体名/電話/FAX)
2月	10日(火)	秋田県臨床研修病院合同説明会	秋田大学医学部学生実習棟・基礎講義棟 チュートリアル室 ホテルメトロポリタン秋田	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883
	14日(土)	キャリア・カフェ	秋田大学医学部附属病院 基礎研究棟 第一会議室	あきた医師総合支援センター TEL:018-884-6430 FAX:018-884-6457
	23日(月)	心臓・腹部超音波検査講習会	秋田県内の 初期研修医・ 専門研修医 (後期研修医)	秋田大学医学部附属病院 シミュレーション教育センター ／内視鏡・超音波センター TEL:018-884-6427 FAX:018-884-6454
3月	1日(日)	レジナビフェア2015 in 福岡	医 学 生 初期研修医	マリンメッセ福岡 秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883
	14日(土)	岩手県臨床研修病院合同説明会 (盛岡会場)	医 学 生	岩手医科大学附属 循環器医療センター 秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883
	22日(日)	レジナビフェアスプリング2015 in 東京	医 学 生	東京ビッグサイト 秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883
4月	17日(金)	新医師歓迎レセプション	初期研修医	ホテルメトロポリタン秋田 秋田県医師会 TEL:018-833-7401 FAX:018-832-1356

指導医メッセージ



平鹿総合病院
循環器内科
伏見悦子先生



平鹿総合病院のプログラム責任者をしております伏見です。秋田大学卒で専門は循環器内科です。プロ責になって3年が過ぎようとしています。

たくさん研修医と関わって来て、自分の研修医のころを思い出したりします。もちろん直接入局の時代ですが、いざ患者さんを前にして、国試の勉強や講義で習ったことではどうしていいかわからず、たくさん本を読み

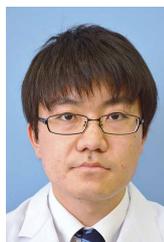
ましたし、先輩にも習いました。時には他科の先生にも薫をもすがら気持ちで聞きまくったりしました。そうしながらたくさん経験を積んで、診断治療の力だけでなく、リスクを察知する能力や患者さんとご家族との心の通わせ方を身につけたりしました。毎日出来る事が増え、苦しい事ももちろんありましたが、充実した日々でした。

だから当院の研修医には、まずは自分で考えられるように配慮しています。今患者さんにとって何が一番問題なのか、どう判断してどう手を打っていったらいいか、頭がぐるぐるするくらい考えます。本も読みます。そしてたくさん研修医に聞きます。そんな経験をして研修医は見事に成長を遂げます。そのバックアップのために私は目を光らせています。

医者は楽な仕事ではありません。時には途方にくれ、後悔し、無力感におそわれることもあります。でもそれ以上に喜びが多い仕事です。だからやめられないのです。平鹿の元気な研修医とともに仕事出来る事に感謝して、今日もまた出勤します。さて今日はどんなことが待っているでしょうかね。

研修医メッセージ

秋田赤十字病院
小野宏晃先生（1年次）
（岩手医科大学・秋田県出身）



研修医として働き始めて、私は“多様性”という言葉の意味を何度も反芻してきました。それは、これまでの学生生活では意識してこなかった、私の弱点だったようです。というのも、学校では全てが点数や偏差値といった数的な量で、客観的に一様な評価をされてきました。ところが研修医になった途端に、ヒューマンスティック

な価値観の衝突や、対人コミュニケーションといった主観的にしか測られない問題の数々に否応なく直面しなくてはならないからです。

このようなときは、人間の多様性を意識することで“前向きな意味で”諦念し、自分の対応や考え方を更新するようにしています。また、自分の得意・不得意な点は、多様性を自身に当てはめることによって理解でき、他者との不毛な競争を避けることもできそうです。そして、周囲を見渡せば同僚の研修医たちの能力にも大きな多様性があるようです。

今はこの多様性あふれる環境が、私自身の成長の糧となることを信じて止みません。



市立大森病院

〒013-0525 横手市大森町字菅生田245-205
TEL: 0182-26-2141 (代表)
HP: <http://www.oomorihp.jp/>

当院は横手市の西端に位置し、保健・医療・福祉・介護が一体となった地域包括医療・ケアを実践している地域密着型病院です。

診療科は13科、病床数150床（一般100、療養50）、救急告示病院・在宅療養支援病院などの指定を受け、救急医療や在宅訪問診療・訪問リハビリなども積極的に行っております。

研修医の皆様との関わりは平成17年秋田大学医学部附属病院の協力病院として地域医療分野の研修医受入に始まり、現在では7基幹型研修病院の協力病院として地域医療研修を実践しております。研修目標は、地域包括医療（ケア）の理念を理解していただき、地域医療と在宅医療、保健・福祉・介護の分野も含めた臨床能力を身につけていただくことですが、もれなく“おおもり”の良さを知らせていただくプログラムも準備しております。地域医療の最前線で充実した研修をお約束します。ぜひお出でください。



… お問い合わせ先 …

E-mail: ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。